

No.39 灰垣委員

私からも一言申し上げます。

まず、このような事案が提案されること自体、私は非常に遺憾と思っています。訴訟などの、これは本来行政の仕事じゃないというふうに思います。また、予算要求されている弁護士費用についても、これは公費です。先ほどから不祥事、また先日の本会議でも、バスの不祥事等が取り上げられています。これは健康福祉部や交通部だけの問題ではないと私は思っています。

このように頻発する職員の不祥事、また業務上の過誤の報告を受けるたびに、皆さんの公務員としての自覚あるいは矜持を疑わざるを得ませんし、また議員としても、とても遺憾で残念なことであります。公務員バッシングというのがよく言われます。ネットで拝見すると、多くのメディアが連日のように公務員バッシングを続けている。日本社会が抱える諸問題は、すべて公務員のせいと言わんばかりの論調も少なくないと、このような記事もありました。

片や、皆さんもご承知だと思いますけれども、東日本大震災、1年半が経過しました。南三陸町の殉職された職員、遠藤未希さん。当時 24 歳。危機管理課の職員であったと。この方が、早く逃げてくださいという放送をしながら、結局、自分も流されてしまったという記事もご承知と思います。少しそこを引用したいと思っています。1年半経過して風化しないという思いも含めて、ちょっと長文ですけど、引用させてもらいたいと思います。

「早く逃げてください」——町全体が津波にのみ込まれ、約 1 万 7,000 人の人口のうち約 1 万人の安否がわからなくなっている宮城県南三陸町は、町役場が跡形もなくなるほど壊滅した。多くの町職員や警察官、消防職員が行方不明となったが、その中に津波に襲われるまで防災無線放送で住民に避難を呼びかけた女性職員がいた。「娘は最後まで声を振り絞ったと思う」。母親の遠藤美恵子さんは、避難先の県志津川高校で涙を浮かべた。娘の未希さんは町危機管理課職員、地震後も役場別館の防災対策庁舎 3 階に残り、無線放送を続けた。

難を逃れた町職員によると、地震から約 30 分後、高さ 10 メートル以上の津波が町役場を襲った。助かったのは 10 人、庁舎屋上の無線用鉄塔にしがみついていた。その中に未希さんはいなかった。遠藤さんは、生き残った職員から、「未希さんが流されるのを見た」という話を聞いた。「もうだめだと思う」とつぶやいた。地震直後、遠藤さんの知人、芳賀タエ子さんは、未希さんの放送の声、「6 メートル強の波があります。早く逃げてください」を聞きながら、携帯電話だけを持ち、着の身着のまま車で避難所の志津川高校のある高台を目指した。停電で信号が作動しておらず、周辺道路は渋滞していた。高台への道路を上るとき、振り向くと、渋滞の列からクラクションが鳴り響き、その背後から津波が家屋

などをなぎ倒しながら追いかけてくるのが見えた。芳賀さんは懸命にアクセルを踏み、数十メートルの高さの高台に逃れた。車をおりて避難所の階段を上がった。そこに遠藤さんもたまたま避難していた。芳賀さんは遠藤さんの手を握って言った。「娘さんの声がずっと聞こえたよ」。高台から見下ろす町は濁流にのみ込まれたと。

こういう記事ですけれども、公務員の皆さんの職責がいかに関心のある仕事かということ。そのためにちょっと引用させていただきました。

また、これ、ツイッターでこのようにつぶやかれていました。「高槻市バスの運転手さん、足の悪い母と一緒にいるときも「ゆっくりでいいですよ」と声をかけてくれたり、知的障がいのある子にも温かいと思います。こういう現場で市民と日常触れ合う公務員さんが気持ちよく働ける環境を、市は保障してほしいですね」。また別の人は、「ほんと、高槻市バスはありがたいですね。ベビーカーに子どもを乗せてバスに乗車すると、運転手さん、飛んできてベルトをつけてくれたり、おりるときに助けてくれたり、いつも助かってます」。このような評価もされています。

本会議で「魚は頭から腐る」というような言葉を引用された方がいらっしゃいました。ここに皆さんお座りの方は、ほとんどの方がリーダーである方だと思います。当然、生じた不正は正さなければなりませんし、再発防止はもちろんのことですが、一度地に落ちた公務に対する市民の皆様の信頼を取り戻すことがいかに困難であるかは、あえて説明する必要もないと思います。

「破壊は一瞬、建設は死闘」という言葉もございます。魚は頭から腐る。だから、まず「隗より始めよ」という言葉もございます。ここにいらっしゃるリーダー格の皆さんが、そういう思いで、またこれだけの誇りを持って、この不祥事に対して毅然と取り組んでいただきたいということを申し上げて、もしご発言があるようでしたら、よろしく願いいたします。

No.40 倉橋副市長

ご質問にもございましたが、たび重なる不祥事、また不適正な事務処理等によりまして、議員各位を初め、市民の皆様に多大なご迷惑、またご心配をおかけし、また市政に対する信頼を大きく損なう結果となりましたこと、私も痛切に感じておりますし、まことに申しわけなく感じておるところでございます。また、事ここに至りましたことについて、私どもの責任の重さを深く自覚し、反省もしているところでございます。

今後、こういった不祥事等を繰り返すことのないよう、私どもといたしましては、早急に、また全力を挙げて組織等の改革、職場での執務システムの改善、環境の改善等を進めていくことはもちろんでございますが、職員一人一人ということで、私を初め、全職員がいま一度、公務員の本分とは何かということを自覚し、一人一人の職員が公共の利益のために従事している奉仕者であるという自覚、そしてまた市民の生命や財産を守る使命を胸

に刻み込みまして、まずは、私ども、いわゆる幹部職員が率先垂範する中で、全員職員が一丸となって職務に全力で取り組み、市民の皆様方が安心して過ごしていただける高槻のまちの実現を目指して取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後とも皆様方のご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

No.41 灰垣委員

今、副市長みずからがご答えいただいたということで、この議案には反対するものではないんですけれども、「聴聞する時は燃え立つばかり思えども、遠ざかりぬれば捨つる心あり」という言葉があります。今、副市長がおっしゃったことは、偽りはないと思いますけれども、時がたつことによって、それがどんどん薄れてしまうということも懸念されます。

そういう意味で、どういった方法でやるのかということを考える必要が私はあると思います。小さなことですが、一般質問でも言いましたが、あいさつ一つ、また朝礼をみるとか、職員同士の顔を見てあいさつをしていくと、こういうことも非常に基礎的なことですが、重要だと思います。

今、団塊の世代の皆さんが多く退職して、若い人たち、非常に優秀な人たちが多くいるというふうに、私はそういう認識をしています。「従藍而青（じゅうらんにしょう）」という言葉をご存じの人も、四字熟語を知っている人もいると思います。「青は藍より出でて藍より青し」という、藍という染料を、繊維を染めていく、乾かしては染め、乾かしては染めると、藍よりも青くなるという。これで、先輩が後輩を私以上に優秀に立派にしていくと、こういった言葉に引用されます。従藍而青と申しますけれども、そういう思いで、ここにいらっしゃるリーダーの皆さんが、市民の生命と財産を守ると。まさしく、その遠藤未希さんは、それに徹して命を落とされた。

皆さんに命を落とせとまでは言いませんけれども、そのぐらいの気概で職務を全うしていただきたいということを申し上げて、私の質問は終わります。

以上です。